

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【1年生配布用】

No25 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

今回は【環境・エネルギー】分野として「水と衛生」をテーマに勉強します。

◆ 途上国における「安全な水」の普及について考えてみましょう。








「安全な水」ってどういうこと？



水は、さまざまな問題に関わる。

どの問題にアプローチしますか？

発展途上国に住む人々の半数近くが、恒常的に水と衛生設備（トイレなど）の不足による健康問題を抱えています。「安全な水」とトイレがあれば予防できる下痢のために、全世界で毎年180万人の子どもが死亡し、子供の死因の第2位となっています。これらの人的損害に加えて、発展途上国の経済成長をも阻害しています。水は経済にとって資源でもあります。

- ① 命の問題・・・飲料水（上水） 
- ② 食糧の問題・・・農業用水 
- ③ 環境の問題・・・水質汚染対策 
- ④ 公衆衛生・・・下水対策 
- ⑤ 気候変動・・・治水対策（洪水・台風被害を防ぐ） 



「安全な水」にアクセスできない人々は、世界に8億8400万人もいます。（2010年）

ここでいう“アクセス”はWHOが定義したもので、1km以内に一人1日20リットルの水を確保できる場所がある、ということが目安です。1kmの距離を歩くと片道約15分かかるので、安全な飲み水へのアクセスがない人たちというのは、生活に必要な水を得るのに毎日往復30分、家族全員分を運ぶのに例えば4往復必要なら2時間以上の水汲み労働が必要な計算になります。そんな状況下にある人たちが9億人弱もいるということに驚かれるかもしれませんが、これでもずいぶん改善した数字なのです。90年代以降、世界中で「水」の安定供給を標語として途上国支援をしようという動きが進んだ結果、安全な水にアクセスできない人の数は確実に減りつつあります。

「池上彰と考える ビジネスパーソンの『国際貢献』入門」日経ビジネスONLINEより引用



今年9月に採択された新しい国連の開発目標（SDGs）にも、水の問題は含まれています。

国際連合広報センターの「持続可能な開発のための2030アジェンダ -- 持続可能な開発目標ファクトシート」より一部引用します。

リンク：http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/15775/

目標6：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

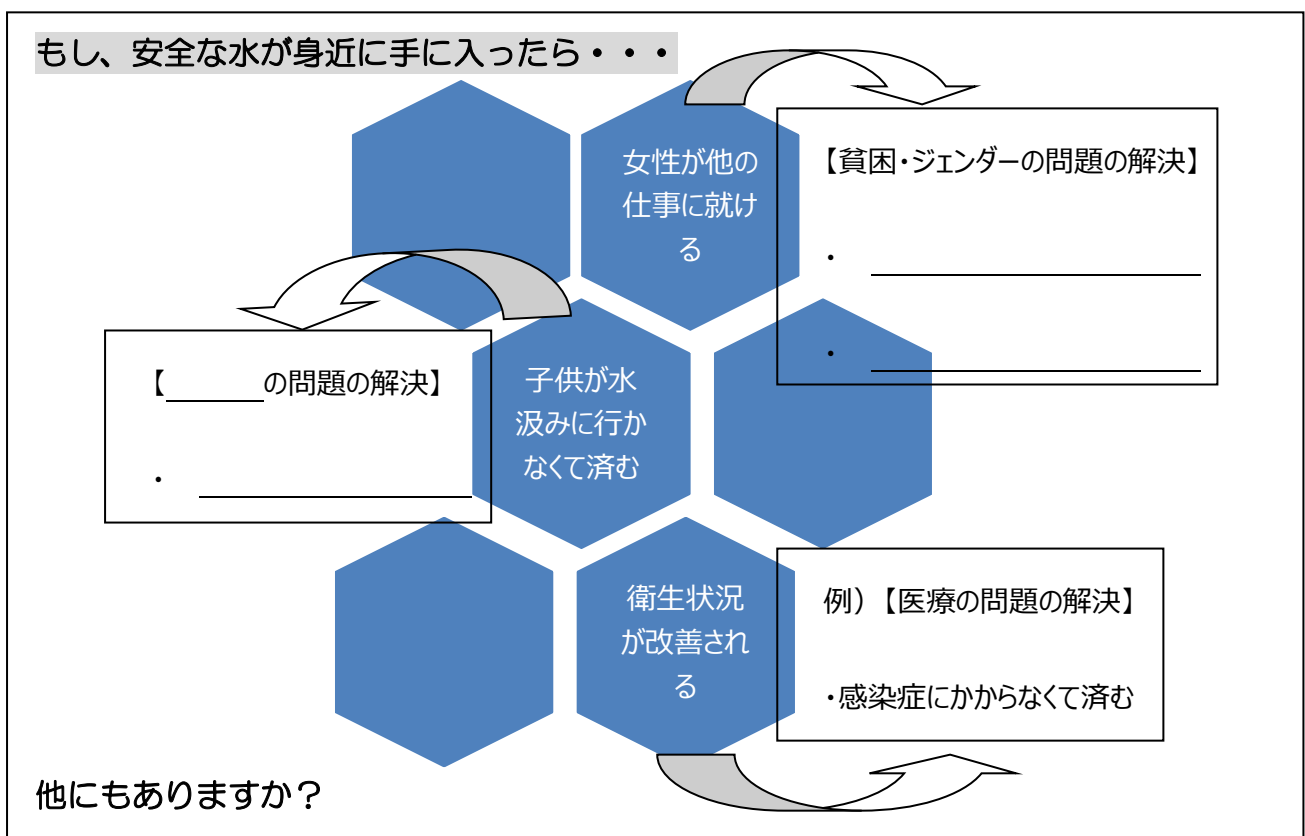
- ・2015年の時点で、改良飲料水源を利用する人々の割合は、1990年の76%から91%へと増大しています。しかし、トイレや公衆便所など、基本的な衛生サービスを利用できない人々も、25億人に上ります。
- ・毎日、予防可能な水と衛生関連の病気により、平均で5,000人の子どもが命を失っています。
- ・水力発電は2011年の時点で、最も重要かつ広範に利用される再生可能エネルギー源となっており、全世界の総電力生産量の16%を占めています。
- ・利用できる水全体の約70%は、灌漑に用いられています。
- ・自然災害関連の死者のうち15%は、洪水によるものです。



では、具体的に【①命に関する水の問題】で考えてみましょう。

水汲みは時間のかかる重労働⇒ 安全な水が手に入ることで解決する問題があります。

空欄を埋めてみましょう。



参考サイト：「池上彰と考える ビジネスパーソン『国際貢献』入門」日経ビジネスONLINE

<http://special.nikkeibp.co.jp/ts/article/OiOi/103816/>

↑水以外にも教育・医療・経済などさまざまなテーマを取り扱っています。

なかでも水の問題については、多面的に解説されていますので、水問題に関わる研究をしたいならぜひ一読してください。

参考文献：「国際理解教育実践資料集」独立行政法人 国際協力機構（JICA）地球ひろば 2013年3月

